

関西電力は大飯原発の再稼働をやめろ！

10月15日、選挙中で前日からの降雨という最悪の条件にもかかわらず、関電本社前には500人を超す人々が参加して、「大飯原発うごかすな！関電包囲全国集会」が開かれた。東京から、福島事故現地から、東京から、柏崎刈羽原発、伊方原発、玄海原発と闘う諸運動、そして福井現地の闘いの報告、大阪・滋賀・兵庫・奈良からの闘いの報告が行われた。

10/15 大飯原発を動かすな！関電包囲全国集会

まず、関電本社に向けて参加者一同で「原発やめろ！」「大飯原発、動かすな！」「高浜原発、今すぐ停めろ！」「原発いらない！」「再稼働反対！」コールを行った。主催者からの挨拶に続いて、全国の運動報告があった。報告では、規制委は非常用発電機のフィルター目詰まりの評価で、現行の火山灰濃度を現実に合わせて100倍に引き上げる。その結果、大飯もそして稼働中の原発も基準に達しないので、直ちに停止すべきだとの指摘も行われた。最後に原発反対は民意であり、その実現のために粘り強く闘うことが決議された。



雨の中 主催者挨拶



御堂筋デモ

うつぼ公園からデモを行った。

名古屋高裁金沢支部の次回審理終結方針に反対！

島崎前規制委員が、大飯原発お地震動判断は過小評価であることを証言し、徹底審議が必要なのに高裁は審議を終結しようとしている。それに対して裁判官忌避申し立て中にもかかわらず、次回審理(11月20日)を終結すると事務連絡を行った。原告と弁護団は、結審することは到底承服できないとした上申書を提出した。改めて真実解明という裁判所の職務を全うするために、その撤回を要求した。「福井から原発を止める裁判の会」は10月20日に金沢の裁判所を包囲する行動を行い、裁判所に徹底審議を要求した。

柏崎刈羽原発反対のパブコメを送ろう

柏崎刈羽原発「適合」審査合格についてのパブリックコメントが11月3日まで行なわれている。パブコメでは何時も裏切られるばかりだが市民の反対の意思を表明しよう。規制委のHPで「パブリックコメント」を選び、柏崎刈羽原発の項目にアクセスして、ネット・郵送・FAXで意見を送ろう。

米軍は飛行を中止せよ！ 高江ヘリパッドを閉鎖せよ

10月11日に東村高江の牧草地に米軍の大型輸送ヘリコプタCH53が墜落炎上した。住宅からわずか200mの地点である。墜落した高江にはヘリパッドが6基増設され、低空での飛行が日常化していた。昨年末にもオスプレイが墜落し、原因究明もせずに飛行が再開された。原因を徹底して究明すべきだ。



福島「生業(なりわい)訴訟」が勝訴 国と東電の賠償責任を認める

福島原発事故をめぐる全国20地裁・支部で12000人以上が原告として提訴している。国と東京電力の法的責任を認めた3月の前橋地裁では、国と東電の賠償責任を認めて原告62人に総額約3800万円を支払うよう命じた。9月の千葉地裁では国の賠償責任は否定して、東電のみに対して原告42人に総額約3億7600万円を支払うよう命じた。

今回の福島地裁での「生業(なりわい)訴訟」は原告数が全国最多の4160人、その第一陣である原告約3900人についての判決が10日に言い渡された。「国は巨大津波を予測することが可能だった。政府機関が2002年にまとめた長期評価によって国が巨大津波の可能性を予測できたと判断。「非常用電源の高所配置などの対策を東電に命じれば事故は防げた」として国の賠償責任を認めた。原告約2900人に計約5億円を支払うよう東電と国に命じた。



原発再稼働は許さない！ 憲法改悪許さない！ 戦争政策許さない！

安倍首相の騙まし討ちの解散による野党側の準備不足と、第2保守党である希望の党による民進党の破壊の結果、選挙結果は自公で3分の2を超える状態となった。

立憲民主党の誕生と躍進が闘いの方向を

戦争法(安保法制)反対を牽引した市民の立憲主義と平和のための運動の大きな前進。そしてそれが民進党を巻き込み新潟知事選での勝利など野党連合の可能性が広がった。それに対して、民進党を野党連合から引き剥がす攻撃が色々な形で掛けられてきた。今回の希望の党と民進党内右派による破壊攻撃もそれそのものであった。

それに対して立憲民主党が創立された。そして瞬間に党のツイッター数が自民党を上回り、支援金が寄せられたという。そして共産党が重複する立候補を大幅に取り下げ、選挙協力が進められた。準備不測にもかかわらず、立憲民

主党が前進したことは、市民の運動の力と野党連合の力を示している。小選挙区制の中で多数を獲得するためには、野党連合が不可欠である。それは選挙の数合わせでなく、日常的な運動を通じて共闘態勢を作り上げていかねばならない。

「勝つ方法はあきらめないこと」の精神で

残念な選挙結果ではあるが、私たちはこの結果を出発点として、反原発、憲法改悪反対、戦争反対の運動を作り上げていかねばならない。どの世論調査でも、「原発再稼働反対」、「憲法9条擁護」、「戦争を起こしてはならない」との意見は多数である。我々は民意を代表していることを確信して、「勝つ方法はあきらめないこと」の精神で運動を続けていこう。

自公民憲法＋維新＋希望 の憲法改悪を許すな

「湘南 Theo の平和のページ」(<http://hws3.spaags.ne.jp/ezetho01/>) でバック No の閲覧とダウンロードが出来ます。

東北の基幹送電線は空いている(京大) (10/4)朝日

昨年5月に東北電力は、青森・岩手・秋田の基幹送電線が「満杯」だとして、50Kw以上の発電装置は新たに接続できなくなっている。山形でも同様に規制されている。そして接続を希望する再生エネ業者には、新規送電線の建設費の負担(数千万～数億円)を求めることで実質的に拒否してきた。

今回、京大の安田・山家特任教授が調査したところ、実際の利用率は2～18.2%であり、現在の送電線が十分利用できることが明らかとなった。東北電力は、「今後の予定や将来の需要動向を考慮して策定しているからだ」と強弁している。

伊方原発定検中に1次冷却水漏れ (10/4)

四国電力伊方原発3号機は昨年8月に再稼働し、10月3日に定期検査になった。その途端に、1次冷却水を抜く作業を開始すると約530mlの放射能汚染水が漏水した。原因調査中とされているが、1次冷却システムの故障は、配管の劣化による破損であった可能性もある。

再処理工場の保安規定違反で審査中断(10/11)朝日

8月に六ヶ所村再処理工場で、非常用電源建屋に雨水が流入したり、ウラン濃縮工場で排気ダクトの腐食が見つかった問題で、原子力規制委は保安規定違反を認定した。再発防止策がまとまるまで、審査が中断されることになった。再処理工場は来年の夏に完成予定であったが、完成は見通せなくなった。雨水が流入した点検口は建設以来点検しておらず、天井裏の排気ダクトも25年間点検していなかった。他の設備も、ほとんどまとまらな点検のないまま放置されてきたと想定される。完成予定が22回延期され、予定から20年経っても完成しないシステムは、もはや中止すべきである。

核廃絶キャンペーン「ICAN」にノーベル平和賞(10/7)朝日

今年国連で採択された「核兵器禁止条約」の原動力となった国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」がノーベル平和賞を受賞した。すでに50カ国以上が調印し、来年には発効する可能性が高い。日本政府は非協力をやめ参加すべきだ。

10/26 7へ「政治に幕引きを!!緊急集会 「モリ・カケ問題」の責任を徹底追及

安倍首相は「森友疑惑」「加計疑惑」を隠すために、そしてトランプ米政権が緊張を激化させる朝鮮半島の危機を利用して、「国難」選挙と称して国会を冒頭で解散した。これに対して、「森友学園問題を考える会」は、「加計獣医学部を考える会」と共同で緊急集会を開催する。安倍首相が逃げ回る森友・加計疑惑を徹底追及し、打倒する闘いを強化しよう。

日時:10月26日(木)19:00~(18:30 開場)

場所:ドーンセンター(地下鉄谷町線 天満橋)

10/27~29 エルおおさか7Fギャラリー- 南京・上海友好訪中報告・展示会

今年が南京虐殺から80年の年です。その年に東京の小池知事は関東大震災での朝鮮人・中国人虐殺を否定し、河村名古屋市長は再び南京虐殺を否定しています。私達は南京虐殺をどう伝え、戦争責任をどう受け止め、日中友好と平和への道をどう作り上げていくのか。訪中団の報告を見て、聞いて考えて行きましょう。



10/27 中国人強制連行大阪・花岡国賠訴訟

裁判の最大の争点であるいわゆる「請求権問題」に関して、「2007年4月27日の西松事件最高裁判決」の不当性が論証される。最高裁判決は、「日中戦争の遂行中に生じた中華人民共和国の国民の日本国又はその国民若しくは法人に対する請求権は、「日本国政府と中華人民共和国政府の共同声明」5項によって、裁判上訴求する権能を失ったというべきである」との判断を示している。これに対して中国人強制連行は日本軍国主義が行った犯罪行為であり、日本政府が責任を認め、謝罪し保障すべきであることを主張する。

米国は朝鮮への戦争準備をやめろ! 無条件で交渉を再開せよ

B1戦略爆撃機の飛来! 空母・原潜の集結

米軍の戦略爆撃機B1は9月23~24日に引き続いて11日に朝鮮半島に飛来した。前回は海上の北方限界線を越え、朝鮮側の深夜の防空体制・連絡体制を調査した。今回はミサイル発射のシミュレーション訓練を行い、韓国軍のF15戦闘機との共同訓練=戦争準備そのものを行った。

米軍の原潜が7日に韓国南部の鎮海に入港し、14日頃には米軍最大級の原潜も釜山に入港する予定である。原潜2隻でトマホークミサイルが300発は搭載でき、それだけで全土の主要な防空網と基地、電力設備・用水設備等が破壊できる。米軍はシリア・イラク奇襲攻撃の開戦時に経験済だ。

そして、来週にはR・レーガンを主力とする空母打撃群が朝鮮半島近海に到着する。戦争の危険性は強まっている。

戦争は、朝鮮だけでなく韓国・日本も多大の被害

米国にとっては極東での限定戦争でも、米軍に基地を提供し、一体化している韓国や日本は戦闘に巻き込まれるのは必定である。もし戦争が始まれば国境から50kmのソウルは戦火に巻き込まれ、日本の米軍基地、原発が反撃の対象となる可能性が大きい。一歩間違えば戦争につながる挑発行為をやめ、無条件で平和のための交渉を再開すべきである。

「韓国/朝鮮」は近くて遠い国である。「韓国/朝鮮」を知るためには、その歴史を知らなければならない。明治以降の歴史で日本が多大な犠牲と苦痛を与えてきたことも学ばなければならない。以後「韓国・朝鮮の歴史を学ぶ」を連載する予定。

韓国・朝鮮の歴史を学ぶ①

大韓民国も朝鮮民主主義共和国も国連加盟国

政府もマスコミも、朝鮮半島の南部を「韓国」とよび北部は「北朝鮮」と呼称している。日本の植民地から解放されたが、東西冷戦の中で分断され、1948年に「大韓民国」、「朝鮮民主主義共和国」として独立した。日本は1965年に韓国(大韓民国)の朴正熙軍事政権と「日韓基本条約」を締結し、韓国を朝鮮半島における唯一の合法政権として国交を回復した。朝鮮(朝鮮民主主義共和国)を承認していない。

1991年に両国は国連に同時加盟した。現在では朝鮮と国交のある国は世界で160カ国を超え、承認していないのは米国、日本、韓国など少数である。

韓国・朝鮮の歴史を学ぶ②

韓国/朝鮮の建国の神話と歴史

韓国/朝鮮が自国の歴史を語るとき、「5千年の歴史と文化」という場合がある。それは紀元前2333年に「天孫の檀君(タンゴン)」が朝鮮の開国を宣誓したという神話による。

紀元前4世紀頃の中国の史書には朝鮮という記述が現れる。その後、新羅・百濟・高句麗の3国時代、統一新羅を経て、918年に統一王朝として高麗が成立。1392年からは李氏朝鮮となり、日韓併合まで519年間続いた。日朝関係は、秀吉による「朝鮮侵略」、海賊「倭寇」の攻撃もあったが、江戸時代には鎖国日本の海外窓口の一つとして、「朝鮮通信使」が日本を訪れ、江戸まで文化交流を重ねて行進した。